

iPadを利用した地域連携とコミュニケーション能力の向上を目指して

学校名 岡山県立玉島商業高等学校

所在地 〒713-8122
岡山県倉敷市玉島中央町2丁目9番30号

ホームページ
アドレス <http://www.tamasho.okayama-c.ed.jp/>

1 研究の背景

本校は、江戸時代中期から物資の集散地として栄えてきた玉島の地に、大正15年、地域の熱望により玉島町立の商業学校として創立された。今年で87年の歴史と伝統を誇り、産業界で多数の優秀な人材が活躍している。

また、平成20年度入学生よりスタートした「ビジネス情報科」も6年目を迎え、生徒は落ち着いた雰囲気の中で勉学に励んでいる。部活動も盛んで、毎年多くの部が中国大会・全国大会へ出場する。特に野球部は4回甲子園に出場しており、地域の期待も高い。生徒は、概して明るく純朴で、何事にも一生懸命に取り組む姿勢を持ち、学業と部活動の両立に励んでいる。さらに、学校では玉商活性化をめざし、学校行事や生徒会活動に力を入れ、PTAや地域との連携に積極的に取り組んでいる。

校内のICT環境は、商業高校のためコンピュータ室が4教室あり充実しているが、生徒増もあり、早急な更新が必要な状況にある。また、短焦点のプロジェクターも5教室設置され、各教科において活用も進んでいる。

2 研究の目的

本校は地域のビジネスリーダーとなれる人材育成を目指しており、地域との連携を進めながら、地元への貢献も使命と考えている。平成24年度も次に掲げるように多くの地域貢献活動を展開してきた。しかし、入学時においては生徒の地域理解度は低く、また、主体的に他者に関わる社会性も十分に備わっているとは言えない現状がある。本研究では、生徒が地域に飛び出し、他者とコミュニケーションをとる機会を多く設けた。

平成24年度地域貢献活動の具体的な内容は、大きく分けると次のとおりである。

(1) 地域学習 地域の産業を調査し発表、商工会議所と連携し地域の活性化に向けての提案、名産品の開発

(2) 出前授業等

小学校入学前 児童館及び幼稚園での読み聞かせ

小学生対象 そろばん出前授業、キッズ・マネー講座（小遣い帳をつけながら金銭教育）

中学生対象 出前授業（地域について、マーケティング等をテーマに講演）

社会人対象 税の申請について

これらの取り組みを、ICT機器を利用することで、情報発信をよりスムーズにし、様々な世代に高校生がICT機器を利用して教えるなど、情報を提供することにより、高校生自身が成長できる機会となる。また、地域の人との交流は高校生が最も苦手とする異世代とのコミュニケーションを必要としており、この取

り組みを通して生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができると考える。

以上のような体験的な学習を通して地元とつながり、地域に対するアイデンティティを育て、さらには生徒のインセンティブを引き出す取り組みを実施することを本研究の目的とした。

3 研究の方法

本研究では、地域との連携と体験学習をコアカリキュラムとして研究を実施した。次にその具体的な計画と内容を述べる。

◆地域学習（平成25年7月から9月）

生徒が、グループに分かれて地場産業の企業や商店等を訪問し、取材した内容を地域のMAPとともにWebにアップする。

◆キッズ・マネー講座（年間3回、一般公開）

地域の小学生に、高校生が作った教材でiPadを利用して小遣い帳をつけさせる。教材は、iPadを使ってゲーム感覚で、小学生が選択しながら進めていけるものを高校生が開発する。

◆出前授業（近隣の小学校、中学校で平成25年9月から平成26年1月まで、年間5回以上）

地域についての紹介や、マーケティングなど中学生に講演する。その教材を高校生が作成する。小中学生は、講義だけでなく、実際にiPadを使って学ぶことにより、学習効果があがる。

◆幼稚園児にiPadを使った読み聞かせ（平成25年12月）

高校生が作成した教材を幼稚園児に話をする、幼稚園児が受け身で聞くだけでなく、自分で画面をタッチして進行する。

◆1年間の研修成果のまとめ（平成26年1月）

全校生徒のほか、地域の方や保護者の方を招いて実施している「課題研究発表会」の中で、1年間の成果を発表する。

4 研究の内容・経過

(1) 【地域学習】

ア 概要

1年生がクラスごとに玉島地区の企業、商店街を訪問・見学し、調査内容をまとめ、文化祭で発表する。

イ 目的

地域の伝統産業、産業遺産について調べ学ぶことで、地域を大切に思う心を育てる。また、その調査結果を文化祭で発表することで、まとめる力・伝える力・発表する力を身に付ける。

ウ 日時 平成25年7月16日（火） 1～4限

エ 実施内容・訪問先

A組 国際物流センター 中谷興運株式会社

B組 白神紙店 仲買町・新町商店街

C組 玉島だるま虎製作所 有限会社小幡商店

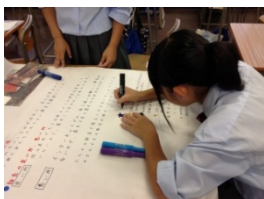
D組 菊池酒造株式会社 通町・清心町商店街

E組 玉島味噌醤油合資会社 清心町・通町商店街

※各クラス8班（5～6名）で、クラスを2つに分け、1店を4班ずつ見学する。



オ 活動の様子



カ 今後の計画

iPadで撮影した画像を本校で借りている外部サーバへ保存し、ビジネス基礎やマーケティング等の授業で共同利用していく。

(2) 【岡山県商業教育協会の行事】

全国高等学校生徒商業研究発表大会は商業を学ぶ生徒が商業に関する課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動の発表を行う大会である。この大会への参加を通して、時代の進展に伴い変化していく経済活動に対応し、生徒の問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、表現力やコミュニケーション能力を育成することを目標としている。



今回、本校ではこの大会に出場するに当たり、調査研究やプレゼンに、iPadを活用することにした。iPadを使っのプレゼンは、岡山県でも初めての取り組みであった。

一般的に大会では発表原稿を暗記してプレゼンするが、今回はより実践的なプレゼンに近づけるために、発表者一人ひとりにiPadを持たせ、画面に発表原稿を提示させて取り組んだ。ここでは無料のアプリケーションソフト「プレゼンカンペ」を使用した。

(3) 【小学生対象キッズ・マネー講座】

ア 目的

キッズ・マネー教室では簡単なゲームを通して、「お小遣い帳の書き方」「お金を自分で管理し判断する能力」「計画・目標を立てる力」など、実生活で役に立つ知識・能力を身につけてもらうことを目的としている。

将来、子供たちが社会に出たときには人生設計・資産運用の専門知識が必要になってくる。経済的に安定し、豊かな生活を送るためにも金銭教育は早期からの学習が重要であると考え、岡山商科大学FPコースの指導のもとに講座を実施する。なお、これは本校が推進している地域連携や出前講座の一環としても実施している。

イ 流れ

4月～7月

自己紹介発表及び学校紹介発表に向けスライド作りと評価・修正。

9月～11月

キッズ・マネー講座用スライド作り。個人で作成し班でまとめ（実際の講座で使用）

9月10日(火) 岡山商科大学高林宏一准教授と大学生来校。

キッズ・マネー講座を受講、体験学習する。

10月17日(木) 岡山商科大学高林宏一准教授と大学生来校。

個人で作成したスライドを見て、評価をしてもらう。指摘された部分を修正し、

講座のチラシ作り及び講座用アイテム作りを実施する。

※岡山商科大学高林宏一准教授に最終チェックをしてもらい、講座で使用するスライドを完成する。

ウ 日程

12月14日(土)

場 所 本校商事実習室

参加費 無料

参加人員 小学生と保護者の方々9名18組

指導者 本校3年生(課題研究キッズマネー講座受講生)



エ iPadの用途

スライドを全体に表示しイベントを進めていくが、班ごとに前にさかのぼってイベントを確認したいときにiPadを利用する。



(4) 【中学校への出前授業】

ア 概要

本校職員が依頼のある中学校を訪問し、中学生に対して高校の授業を模擬的に実施する。

イ 目的

中学生が商業高校の概要や授業の内容を早期に理解することで、商業高校への関心を高め、進路選択に役立てるものとする。

ウ 日時

実施日時は中学校と相談して決定する。

エ 授業内容

「マナー講座」・「簿記」・「マーケティング」・「ライフプラン」・「玉島都市計画」

オ その他

iPad等必要なものは持参する。

※10中学校・中学生約1,500名が受講した。



(5) 【読み聞かせ】

ア 概要

家庭総合で保育を学ぶ本校3年生が、近隣の幼稚園を訪問し、幼児との触れ合いや保育発表をする。

イ 目的

幼児との触れ合いを通して、生徒に保育への関心を持たせるとともに子どもの発達について理解させる。

ウ 日時

平成25年12月17日(火)18日(水)19日(木)午前9時から10時15分

エ 実施内容(経過と今後の予定)

○4~7月:授業のはじめに2~3名ずつ絵本(紙芝居・大型絵本含む)の読み聞かせをする(全生徒)



- 9～10月：ミニ絵本製作（全生徒）
- 10月：ミニ絵本の相互評価・自己評価
- 10～11月：使用するミニ絵本の選定、読み聞かせ絵本の準備（iPadを使用）
- 12月：幼稚園実習
 - 12月17日（火） 大型絵本の読み聞かせ及び絵本の題材にちなんだ工作
 - 12月18日（水） iPad（6台）を使用した読み聞かせ
 - 12月19日（木） 大型紙芝居の読み聞かせ

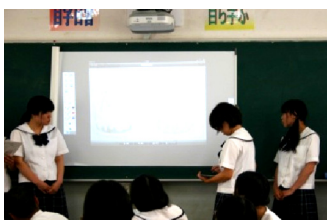
（6） 【授 業】

本校では5月中旬にiPadを10台導入したと同時に、短焦点プロジェクター常設の選択教室（3室）にWi-Fiのネットワーク環境も整備された。5月21日にiPadの使用方法についての教員研修会を実施し、iPadを利用した授業が可能になった。

iPadを利用した授業展開例として①YouTubeで心肺蘇生動画の学習、②ワークシートを取り込んでの商品開発の研究発表、③書画カメラの代用としてノートを撮影した数学の授業、④Google earthを使っての地域学習、⑤EDINET（有価証券報告書）の閲覧など教科ごとに様々な利用が行われている。

次に、本校では全教員による公開授業を実施している。これは授業者が自らの授業を振り返り、授業改善を行うきっかけとして他の教員に見学してもらうことと、見学した教員が授業から導かれる成果や教訓を授業者と共有し、自らの授業に生かしていく趣旨のもとで8年前から実施されている。時期は前期6月10日から、後期11月5日からの2週間で、教科の枠を超えて自由に参観し、教科別の反省会を開き、相互の授業の反省点を指摘しながら、授業改善に役立てている。今回は前期公開授業にiPad等の導入が間に合い、iPadを利用した授業公開ができた。また、これまで使用のなかった教員への利用促進ができた。

本校の学校自己評価では「学校は授業内容の充実に努めており、工夫が感じられるか」の項目について、生徒の満足度は平成23年度63.2%、平成24年度55.3%と満足度が低下傾向であった。



しかし、本年度iPadをはじめとしてICT機器を利用することで、より分かり易い教材の提供や言語活動の推進といった授業改善がなされ、満足度は73.8%に上昇した。このことが、さらに生徒の学習成果や知識・理解力の向上に繋がっていくことを願っている。

5 研究の成果

商業教育は「もの」をつくらないと言われてきた。しかし、必要な情報やサービスを作り出し、タイムリーに提供することが商業教育で大切なことであり、材料など何も必要とせず「無」から「無限大」の効果を生み出すことができる。人が、何が必要なのかを知るにはコミュニケーションが不可欠である。本校の生徒は計算ツール、情報処理ツールとしてパソコンに慣れ親しんでいるが、コミュニケーションツールとしてのICT機器の利用の経験は少ない。今回の研究によって、生徒が学校外の人とのコミュニケーションの中に、iPadを中心としたICT機器を利用することで、より効果的な交流を行うことが出来たと信じている。

6 今後の課題・展望

生徒が地域の方とふれあい、自分たちの取り組みが地域に貢献していると感じた時、それが生徒の自信になる。今回の研究において生徒の地域に対するアイデンティティを育て、将来地域貢献をするというインセンティブを引き出すことはある程度出来た。確かに個々の授業や行事では iPad を使うことによって生徒の理解度や学習意欲が高まったと感じる場面もあった。しかし、商業高校としての責務である「地域貢献」をコアとしてそれらの授業や行事が繋がっていくという感覚がまだないのが実情である。それこそが今後の第一の課題であると考えている。

さらに、教員はわかりやすい授業を計画し、実践するという大切な使命がある。それを iPad という優れたツールを使用することによって刺激が与えられ、意欲的に実施できたことは教員にとっても大きな収穫であった。今後、今回作成した教材を共有し、進化させるとともにドリル型学習教材の開発も今後の課題としたい。我々が学ぶ人間になれば、楽しくそして学力が向上する授業ができると確信している。

7 おわりに

学校内外で施す全ての教育活動の基本は、生徒に学校や社会のルールを遵守することの大切さを教え、社会の形成者としての自覚を促し、道徳性や規範意識等を育むことが必要である。また、地域の伝統と文化に対する理解を深め、それらを受け継いできた地域を大切に思い、その発展に向け積極的に参画する人材を育てることが必要である。

この1年間の取り組みは、教職員と生徒たちが社会に飛び出し、地元玉島に根ざした商業高校として、地元玉島に貢献できる人材の育成を期するために模索の中から行われた実践である。このことが、これから100周年の節目に向けて築き上げる本校の歴史の一頁を飾ることができたと確信している。

最後に、パナソニック教育財団を始め御支援いただいた関係各位に心から感謝を申し上げたい。